

高齢者の健康・防災意識とソーシャルキャピタルに関する研究

—大学周辺の岡崎市矢作北地域の高齢者を対象にした調査—

A study on health, disaster awareness and social capital of elderly people

—A study on the elderly in the North Yahagi area, Okazaki City—

木村 典子 Noriko Kimura
(愛知学泉短期大学生活デザイン総合学科)

抄 録

大学周辺の岡崎市矢作北地域の高齢者を対象に、高齢者の健康・防災意識とソーシャルキャピタルの関係を調査した。ハザードマップを理解している人は3割程度であった。ハザートマップの認識は消防団の活動やボランティア、寺社活動している人に理解している人が多い傾向にあった。主観的健康観、歩行時間、抑うつ尺度からみる精神的健康は社会ネットワーク結束型、橋渡し型と関連しており、社会交流が多い人ほど、健康であると思っている傾向にあり、精神面もよい状況にあると考えられた。

キーワード

ソーシャルキャピタル、高齢者の健康、防災意識

目 次

- 1 背景
- 2 研究目的
- 3 用語の定義
- 4 研究方法
- 5 調査対象の岡崎市矢作北地域
- 6 結果と考察
- 7 まとめ

1 背景

「二十一世紀における第二次国民健康づくり運動(健康日本 21(第二次))」において、健康維持を行うためには、対象個人への介入を行うだけでなく、環境決定要因への働きかけも重要とされ、地域のつながりの強化を目標としたソーシャルキャピタルの向上が目指されている。

ソーシャルキャピタルは、社会関係資本と呼ばれ、信頼・互助・共助など、コミュニティのネットワークを形成し、そこで生活する人々の精神的な絆を強める、見えざる社会資本である。

厚生労働省老健局は、高齢者において、支えあい

による地域包括支援システムを推進してきている。「介護」「医療」「予防」といった専門的サービス、「住まい」と「生活支援・福祉」といった分野の体系化・組織化を目指している。限りある医療や介護が必要な人に効率的で質の高いサービスの提供(共助、公助)すること、また、多くの人がネットワークを作り地域づくりをすることで、自身による健康管理(自助)や、地域の支え合い(互助)として、つなげていくことの社会を目指している。しかし、都市部では、意識的に「互助」の強化を行わなければ、強い「互助」を期待できない状況があるようである。

昨今、増えている大規模災害においても、地域のコミュニティの自助、互助が極めて重要な役割を果たすと言われている。

大規模な災害の際には、行政の人的・物的資源も限られているため、地域住民が協力し合って、自分たちの身は自分たちで守るという意識の醸成が必要となる。災害による被害を最小限に抑え、復興するためにも、信頼と互酬性に裏打ちされた豊かな社会的つながりが重要である。

岡崎市では2015年に高齢化率が21%を超え、超高齢社会を迎えた。65歳以上の高齢者が急速に増加するのに対し、若者世代はゆるやかに減少している。岡崎市はまちぐるみの祭り、史跡なども多くあり、地域と文化の結びつきがある地域である。市の中心部など、人口の集中している地域でも、高齢者夫婦のみの世帯、高齢者一人暮らしの世帯が増え、また、空き家も増えてきている現状がある。自治会と自治体、地域包括支援センターとが協力して対策を講じている。しかし、自治会の活動の担い手は高齢者が多くなっている。

愛知県防災局地域における災害を伝承するHPのデータから、岡崎市における災害は一級河川である矢作川水害が中心であった。この地域は矢作川の水害に昔から悩まされてきていた。最近の災害では、2000年9月の東海豪雨では矢作北地域で112戸の浸水被害があり、2008年8月豪雨では、岡崎市内を流れる9つの河川が氾濫し、橋の崩落もおきた、床上、床下浸水を合わせると3365戸に上った。本学の東に、矢作川が流れており、日中に起きた災害では大学と地域が協働で、対処していくことが必要となる。そのためにも、地域との関係が大切になる。

木村らは、2008年からおこなっている認知症予防活動の研究成果から、地域において、高齢者同士交流のさかんな地域は、地域への愛着感、つまり、ソーシャルキャピタルが高く、認知症が疑われる人も少なく、認知症高齢者を受け入れる体制があった。高齢者の主観的健康観も高かった。高齢者の交流できる場作りによって、高齢者の健康につながると考えられた。また、木村らは2014年から岡崎市で愛知学泉短期大学生生活デザイン総合学科の学生、地域の高齢者施設と協働で、認知症カフェ活動を展開してきている。その活動を通して、「高齢者が、活動に参加することは、個人的な要素として、心身の活動量が増加・健康意識の向上となり、健康につながっていくのではなかろうか。また、活動に参加するこ

とで、社会的な要素として、地域での友人・知合いが増えることが信頼感に変化をもたらし、地域のソーシャルキャピタルが向上し、お互いがソーシャルサポートを授受し、ボランティアの関係ができていくのではなかろうか。」と仮説を立てた。

2017年1月からは大学および、大学のある矢作北地域において、大学周辺の地域住民(矢作北地域)を対象に、愛知学泉短期大学 生活デザイン総合学科で、学生と教員が協力しあい、月に一回、サロン活動を実施して、地域の人が集うことのできる場づくりを行っている。その場に集まる方はほぼ高齢者である。日中、この地域にいてのは高齢者であり、若い年齢層の人達は仕事に行っていることが予想された。

本研究では、大学周辺の岡崎市矢作北地域の高齢者を対象に、健康、防災意識とソーシャルキャピタルについて調査し、この結果を、よりよいサロン活動の提案に結びつけていきたいと考えている。

2 研究目的

大学周辺の岡崎市矢作北地域の高齢者を対象に、高齢者の健康・防災意識とソーシャルキャピタルの関係を明らかにし、大学で実施している学泉木曜サロンのよりよいサロン活動の提案の資料にする。

3 用語の定義

ソーシャルキャピタル

人間関係資本、市民社会資本などと訳される概念。これが豊かな地域・集団ほど、住民の平均余命が長い、失業率が低い、犯罪が少ないと報告されている。

人々とのつながりをあらわす用語であり、構成要素は「信頼」「互酬性の規範」「市民社会にある水平性、多様性のネットワーク」の3つが重要としている。社会ネットワークは組織内部のつながりとなる結束型と、組織と組織を結びつける橋渡し型がある。

(内閣府 2003)

4 研究方法

4.1 研究デザイン

自記式質問紙法による調査研究

4.2 研究対象

岡崎市矢作北地域の学泉木曜サロン、高齢者教室、認知症カフェ、敬老会へ参加の高齢者300名

4.3 調査期間

2017 年 7 月～11 月

4.4 質問紙の配布と回収方法

岡崎市矢作北地域の学泉木曜サロン、高齢者教室、認知症カフェ、敬老会へ参加の高齢者に配布し、後日大学に返送してもらうように封筒を添付した。

4.5 質問紙の構成

属性、ソーシャルキャピタル、防災意識、健康である。（表 1）

(1) 属性

性別、年代、家族構成、居住年数とした。

(2) ソーシャルキャピタル

藤見らのソーシャルキャピタル調査を参考に作成した。信頼互酬性、社会ネットワークの結束型、橋渡し型を測定できるように構成した。

(3) 健康

身体面では、医師より処方された薬の量、栄養状態の自覚、1 日の歩行時間、足腰への自信、残存歯とした。精神面では、主観的健康観、物忘れの自覚、GDS5(高齢者抑うつ尺度)とした。

(4) 防災意識

自助・共助意識では、川の水位の確認、避難判断、備蓄、消防団への連絡とした。災害対応意識では、ハザードマップの認知、避難勧告、避難指示について考え方とした。

4.6 分析方法

単純記述集計および、健康、防災意識とソーシャルキャピタルの相関を求めた。健康・防災意識とソーシャルキャピタルの変数に順序性のある値を定義して、ノンパラトリックのスペアーマンの相関係数にて検定を行った。

次に、ソーシャルキャピタルと防災意識のモデル構築をし、共分散構造分析をおこなった。

4.7 倫理的配慮

研究の参加へは自由であり、参加しないことで不利益が被らないこと、質問紙の返送をもって、研究への参加の同意が得られたとした。この内容を説明

し、質問紙にも記載した。

5 調査対象の岡崎市矢作北地域

岡崎市の西側に位置し、中園町、西大友町、東大友町、舳越町、森越町、橋目町の一部から構成される地域である。人口は 17,078 人であり、年少人口は 15.5%、生産者人口 67.0%、高齢者人口 17.7%となっていた。

6 結果と考察

質問紙は 300 配布して、回収は 156 名であった。回収率 55%であった。

6.1 対象者の特性

性別は男性 69 名、女性 70 名、無回答 17 名であった。

年代は 60 歳代 35 名、70 歳代 65 名、80 歳代 43 名、90 歳代 4 名であった。

居住年数は 5～10 年 7 名、10～20 年 9 名、20～40 年 34 名、40 年以上 94 名であった。

6.2 ソーシャルキャピタル

信頼互酬性の項目からも近所で心配事をきいてくれる人がいる、地域に利益の活動の参加にしていと、8 割以上の人が答えている、また、近所つきあい程度は日常的に立ち話をするつきあいであり、挨拶もある程度頻繁であると、8 割以上の人が答えている。これらのことから、近所づきあいは頻繁で、良好の地域といえる。他のネットワークとのつながりもみても、自治会では 6 割、寺社活動では 4 割となっていた。

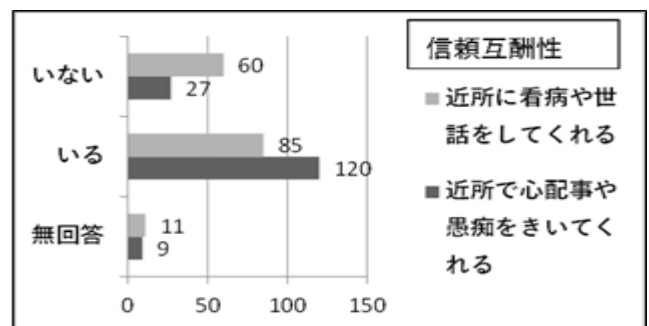


図 1 信頼互酬性 近所との関係

表1 質問紙の構成と変数名・定義・値

種類	変数名	定義・	値
属性	性別	1. 男 2. 女	
	年代	1. 60歳未満 2. 60歳代 3. 70歳代 4. 80歳代 5. 90歳代	
	居住年数	1. 5年未満 2. 5～10年 3. 10～20年 4. 20年～40年 5. 40年以上	
信頼 互助 性	近所愚痴	近所で心配事や愚痴をきいてくれる人がいる	いる:1、いない:0
	近所世話	病気に罹ったとき、近所に看病や世話をしてくれる人がいますか。	
	要援助者の認知	近所に、要援助者がいることを知っている。	いる:1、いない:0
	地域への奉仕	あなたにとって利益がないが、地域にとって利益のある活動に半日の時間を提供してもよいと思いますか。	思う:1、思わない:0
社会 ネット ワーク	結束型	近所付き合い	4. 互いに相談、日用品の貸し借りをするなど、生活面で協力しあっている、3. 日常的に立ち話をする程度のつきあいはしている。2. あいさつ程度の最小限のつきあいしかしていない、1. つきあいは全くしていない
		近所面識	4. 近所のかかなりの多くの人と面識・交流がある 3. ある程度の人と面識・交流がある 2. ある程度の人と面識・交流がある 1. 隣の人がだれかも知らない。
		近所挨拶頻度	5. 日常的にある（毎日～週に数回程度）4. ある程度頻繁がある（週に一回～月に数回程度）3. ときどきある（月に一回から年に数回程度）2. めったにない（年に一回～数年に一回程度）1. まったくない
		自治会	自治会町内会婦人会老人会の活動 活動している:1 活動していない:0
	橋渡し	消防団	消防団・防犯パトロール活動 活動している:1 活動していない:0
		地域の歴史	地域の歴史・文化の学習、伝統を守る活動 活動している:1 活動していない:0
		地域活性化	地域活性化のための活動 活動している:1 活動していない:0
		スポーツ	スポーツ・趣味・娯楽活動 活動している:1 活動していない:0
		ボランティア	ボランティア・NPO活動 活動している:1 活動していない:0
		神社・寺	神社・寺政治。活動 活動している:1 活動していない:0
自助 意識	共助	水位の確認	川の水位の確認 個人・自主防災組織:3 個人・自主防災組織と行政:2 行政:1
		避難判断	避難判断 個人・自主防災組織:3 個人・自主防災組織と行政:2 行政:1
		備蓄の手配	備蓄の手配 個人・自主防災組織:3 個人・自主防災組織と行政:2 行政:1
		消防団連絡	消防団への連絡 個人・自主防災組織:3 個人・自主防災組織と行政:2 行政:1
災害 対応 意識	対応	ハザードマップ	1. まったく知らない 2. 存在は知っているが見たことはない 3. 見たことはあるが理解できなかった 4. 見たこともあり、理解できた
		避難勧告	避難しますか 避難する:1 避難しない:0
		避難指示	避難しますか 避難する:1 避難しない:0
身体 健康	健康	医師処方	医師より処方された薬の量 4種類以上 ある:1 ない:0
		歩行時間	1. ほとんどない 2. 15分程度 3. 30分程度 4. 1時間程度 5. 1時間以上
精神 健康	健康	主観的健康観	1. まったく自信がない 2. やや自信がない 3. やや自信がある 4. すごく自信がある
		GDS5 高齢者抑うつ 尺度	0～5点

表2 防災意識とソーシャルキャピタル

	信頼・互酬性				社会ネットワーク							結束型		社会ネットワーク			橋渡し型	
	近所で愚痴	近所の世話	要援助者の認知	地域への奉仕 ¹	つきあい程度	つきあい人数	つきあい頻度	自治会 ¹	消防団 ¹	地域歴史 ¹	地域活性化 ¹	スポーツ ¹	ボランティア ¹					
水位確認	.040	.162	-.044	.143	.071	.176	.106	.095	-.127	.009	-.037	-.020	-.124	.007				
避難判断	.275	.336	.075	-.017	-.035	.193	.072	-.110	-.069	.061	.041	-.020	.071	.085				
	.004	.000	.437	.855	.713	.040	.449	.273	.534	.589	.710	.846	.513	.420				
	107	109	109	112	115	114	114	102	84	82	85	100	86	92				
備蓄手配	.302	.362	.169	.033	.075	.253	.191	-.109	-.040	.189	.228	.118	.014	.185				
	.001	.000	.077	.727	.420	.006	.040	.276	.717	.086	.035	.239	.898	.076				
	110	110	111	114	117	116	116	102	85	83	86	102	89	93				
避難援助	.313	.195	.203	.183	.183	.198	.067	.002	.077	.196	.129	.149	-.059	-.013				
	.001	.035	.028	.046	.043	.029	.460	.986	.488	.080	.236	.124	.582	.903				
	115	117	117	120	123	122	122	107	84	81	86	108	88	93				
消防団連絡	.335	.357	.164	.244	.113	.240	.008	-.076	-.081	.082	.106	.037	-.041	.037				
	.000	.000	.079	.008	.216	.008	.931	.441	.461	.465	.326	.703	.702	.719				
	113	115	115	118	121	120	120	106	84	82	87	106	89	95				
ハザードマップ	-.027	.046	-.036	-.176	-.219	-.289	-.165	-.113	-.364	-.100	-.316	-.053	-.416	-.214				
	.771	.621	.692	.052	.013	.001	.065	.236	.000	.353	.002	.581	.000	.036				
	122	120	125	123	128	126	126	112	90	88	93	110	96	97				
避難勧告	.051	.206	.044	.151	.159	-.010	.023	.135	.096	-.149	-.052	-.155	.021	-.050				
	.555	.015	.606	.073	.057	.904	.782	.135	.352	.165	.617	.097	.837	.621				
	139	138	141	141	145	145	145	124	96	89	94	116	100	100				

表3 健康とソーシャルキャピタル

	信頼互酬性				社会ネットワーク										結束型		社会ネットワーク			橋渡し型
	近所で愚痴	近所の世話	要援助者の認知	地域への奉仕 ¹⁾	つきあい程度	つきあい人数	つきあい頻度	自治会 ¹⁾	消防団 ¹⁾	地域歴史 ¹⁾	地域活性化 ¹⁾	スポーツ ¹⁾	ボランティア ¹⁾							
主観的健 康観	.013	.068	.135	.060	.166	.214	.158	.166	.214	.158	.553	.321	.375	.204						
	.883	.431	.112	.482	.046	.010	.060	.046	.010	.060	.000	.000	.000	.038						
	137	137	140	142	145	143	143	145	143	143	96	120	99	104						
四種類内 服	.064	.137	.184	.041	.086	-.134	-.051	.086	-.134	-.051	-.157	-.206	-.223	-.155						
	.444	.106	.028	.631	.301	.106	.539	.301	.106	.539	.129	.024	.024	.118						
	143	141	142	142	147	147	147	147	147	147	95	120	102	103						
歩行時間	-.014	.228	.198	-.073	.150	.175	.277	.150	.175	.277	.081	.219	.223	.375						
	.866	.007	.018	.385	.071	.034	.001	.071	.034	.001	.434	.017	.024	.000						
	142	140	142	143	147	147	147	147	147	147	96	119	102	103						
GDS5	-.135	-.037	-.085	.047	-.177	-.086	-.205	-.177	-.086	-.205	-.213	-.350	-.300	-.364						
	.113	.668	.322	.585	.034	.307	.014	.034	.307	.014	.041	.000	.003	.000						
	138	136	138	139	143	143	143	143	143	143	93	116	97	101						

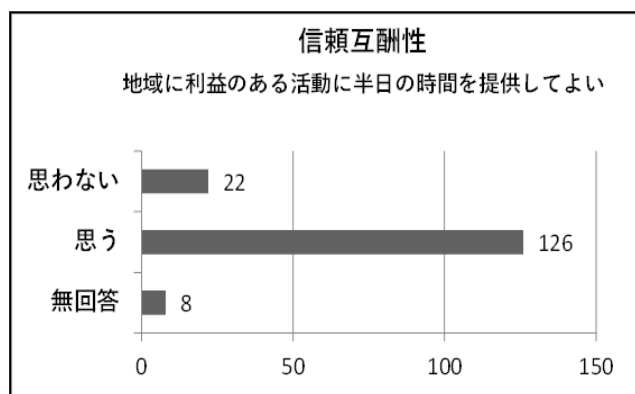


図2 信頼互酬性 地域奉仕活動

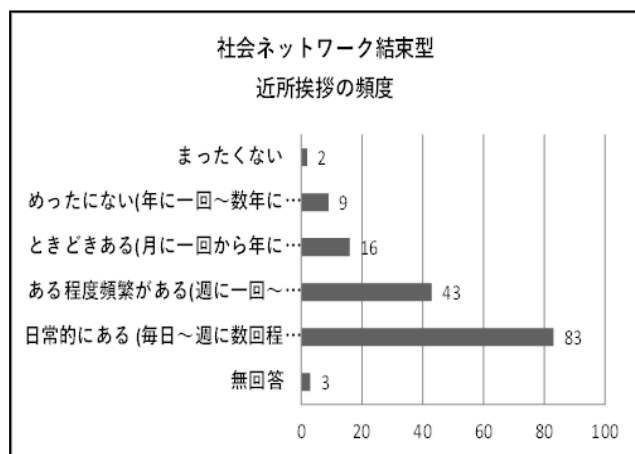


図3 社会ネットワーク結束型 近所挨拶

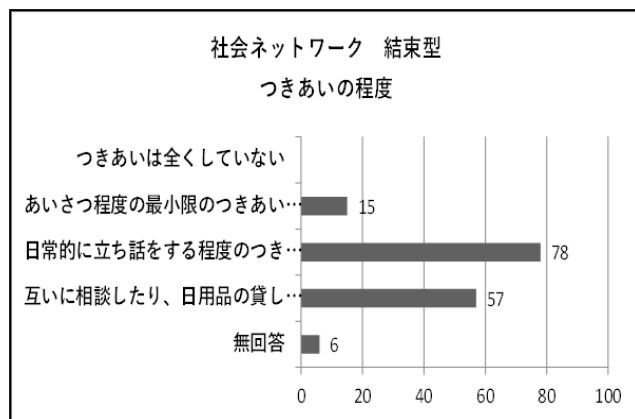


図4 社会ネットワーク結束型 近所とのつきあい程度

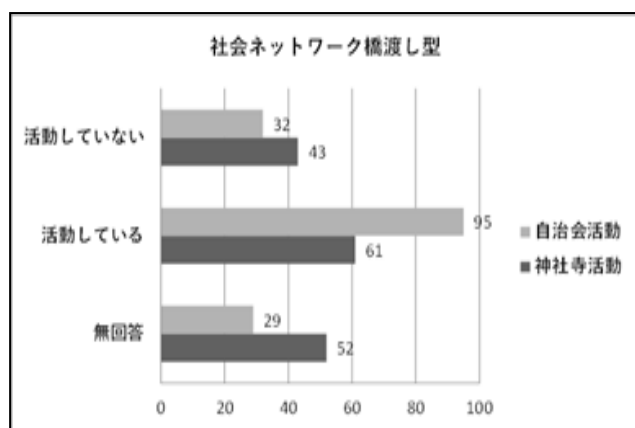


図5 社会ネットワーク橋渡し型

6.3 健康

医師から処方された薬が4種類未満の人が65%いるにも関わらず、主観的健康観で、やや自信がある以上を答えた人は52%と低い結果となった。一日の歩行時間は30分以上が60%で、15分以下が29%であった。1時間程度、以上歩く人は35%といて、歩く人、歩かない人と両極的になっているのも、特徴である。GDS5より見る、抑うつ傾向では、74%は精神的に健康な状態となった。

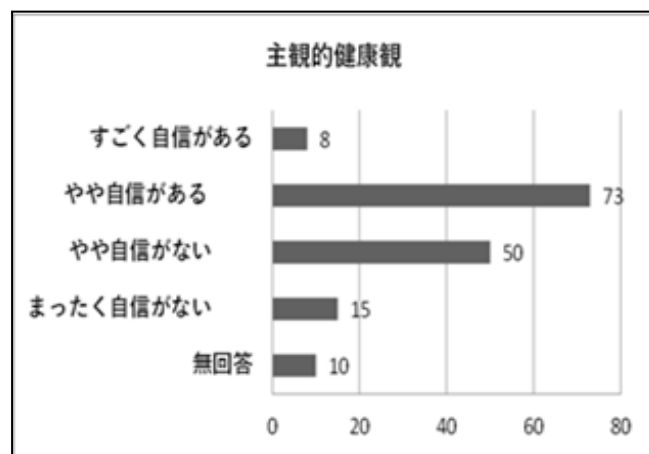


図10 主観的健康観

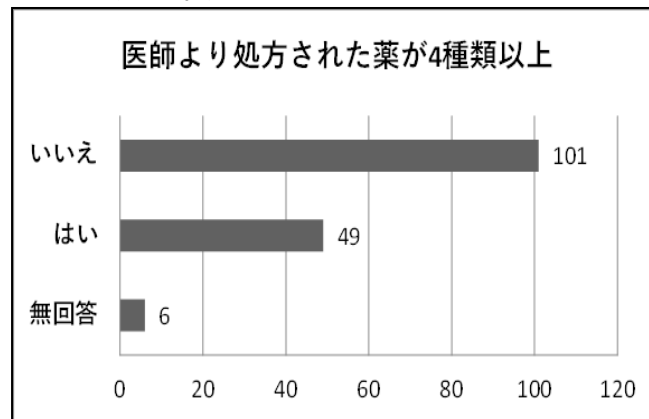


図11 医師からの薬の処方量

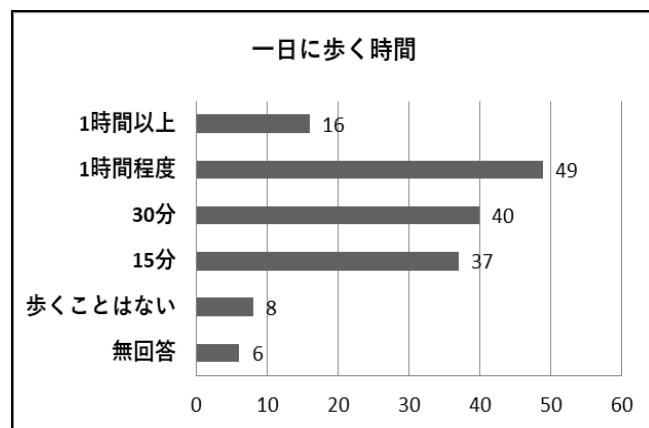


図12 一日の歩行時間

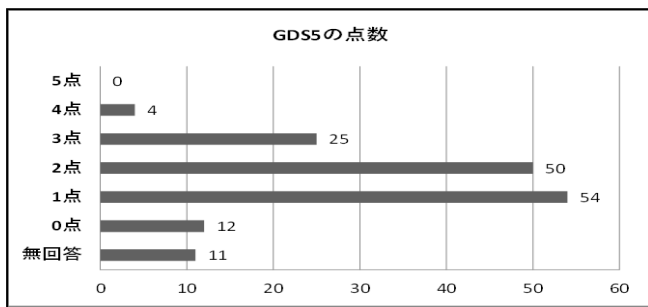


図 13 GDS5

6.4 防災意識

自助共助意識を川の水位の確認、避難、備蓄の手配を 5 割程度の人は個人と行政、両者でおこなうべきと考えていた。大規模災害に備え、最低 3 日分の備蓄準備が必要と言われる中、自助意識を高める必要がある。災害対応意識では 8 割弱の人が避難勧告・指示に基づき行動すると答えていた。ハザードマップの認識して理解している人は 3 割程度とおり、普及活動の必要性を感じている。

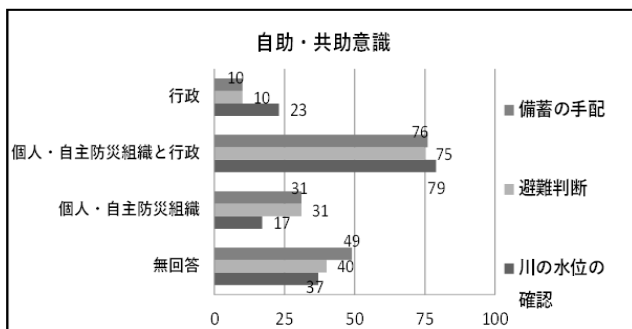


図 14 防災意識 自助・共助意識

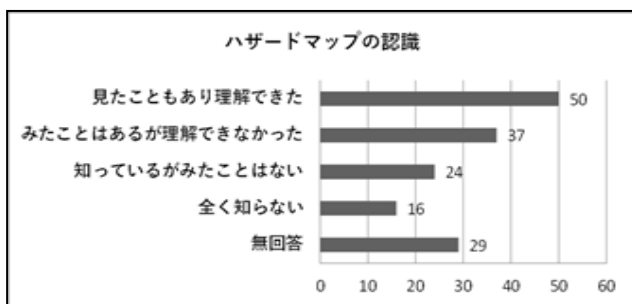


図 15 ハザードマップの認識

6.5 防災意識・健康とソーシャルキャピタルの関係

防災意識とソーシャルキャピタルでは、避難援助と信頼互酬性、社会ネットワークの結束型、つまり、近所との親密さ、地域への愛着と関係していた。ハザードマップの認識は消防団の活動やボランティア、寺社活動している人に理解している人が多い傾向にあった。主観的健康観、歩行時間、抑うつ尺度からみる精神的健康は社会ネットワーク結束型、橋渡し

型と関連しており、社会交流が多い人ほど、健康であると思っている傾向にあり、精神面もよい状況にあると考えられた。

6.6 防災意識とソーシャルキャピタルとの関係モデル構築、共分散構造分析

防災意識とソーシャルキャピタルとの関係モデル構築し、共分散構造分析を行ってが、モデルとしては成り立たなかった。再度モデルを作成して、検討を進めていきたいと考えている。

7 まとめ

大学周辺の岡崎市矢作北地域の高齢者は近所との関係は良好であることが分かった。社会ネットワーク 近所・地域とのつきあい、その他の社会ネットワークのつながりが健康、防災意識に影響してくることが分かった。ハザードマップの認識の低さがわかり、対策を講じることが求められる。

引用文献

- 1) 木村典子他（2010）：認知症予防と運動習慣の関係，クロリティー選手権大会に参加した高齢者からの考察，東邦学誌 39(1)，91-102
- 2) 木村典子他（2016）：地域連帯を高めるための高齢者ボランティアが活躍できるサロンの提案，地域活性化研究 10，1～10
- 3) 株式会社日本総合研究所(2003)：平成 14 年度内閣府委託調査「ソーシャルキャピタル、豊かな人間関係と市民活動の好循環を求めて」，15-19
- 4) 藤見俊夫他(2011) ソーシャルキャピタルが防災意識に及ぼす影響の実証研究，自然災害科学 j. jsn6, 487-499，

参考文献

- 1) https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kenkounippon21.html
- 2) https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukush_kaigo/kaigo_koureisha/chiiki-houkatsu/

（原稿受理年月日 2018 年 10 月 11 日）